歴　史

はじまり

天童織田藩は、織田信長の次男・信雄を藩祖とする。信長の死後、信雄の四男により上野国小幡藩（現・群馬県甘楽町小幡）が創始されたが、「明和事件」に関連して出羽国高畠に移封された。

その後、1831年藩主が高畠から天童に入部して天童織田藩が誕生。

史　跡

≪建勲神社≫ ※通称：けんくんじんじゃ

天童藩知事の織田信敏（元14代藩主）が信長を祭神として、東京に「織田社」を造り祀っていた。

明治２年（1869年）に神祇官より「健織田社」（たけしおりたのやしろ）という神号が下賜された。明治３年（1870年）に天童市の城山（現　舞鶴山）山頂に社殿が建造された。明治17年に現在地に移転。

≪三宝寺≫

1830年に天童織田藩は、織田宗家の菩提寺として三宝寺に織田家御霊屋（御位牌堂）を造り、織田信長の位牌をはじめ、織田家歴代藩主の位牌を納めた。御霊屋の正面には織田信長の肖像画が飾られている。

≪妙法寺≫

家老吉田大八が自害した“観月庵”がある。潜伏していた大八は、自首して天童藩に引き渡されて観月庵で切腹した。その時、大八の血が観月庵の天井を血で染めたと伝えられる。遺品や資料を展示している。

≪仏向寺≫

吉田大八が埋葬されている。仏向寺の墓碑銘は、先導役代理として出発するに当たって自筆し、これで墓を造るよう依頼したもの。大八の覚悟と苦しい心情がうかがわれる。

家系図

織田信秀
- 信長
  - 信忠 — 秀信
  - 信雄（①のぶかつ（のぶお））
    - 信良（②のぶよし）
      - 信昌（③のぶまさ）
        - 信久（④のぶひさ）
          - 信就（⑤のぶなり）
            - 信右（⑥のぶすけ）
              - 信富（⑦のぶとみ）
                - 信邦（⑧のぶくに）
                - 信浮（⑨のぶちか）
                - 信美（⑩のぶかず）
                - 信学（⑪のぶみち）
                - 信敏（⑫のぶとし）
                - 寿重丸（⑬すえまる）
                - 信敏（⑭のぶとし）（再）
    - 高長（大和・松山藩 — 丹波・柏原藩）
  - 秀勝
  - 信孝
- 信行
- 信包
- 長益（有楽斎）
  - 長政（大和・芝村藩）
  - 尚長（大和・柳本藩）
- 女子

小幡藩 → 高畠藩 → 天童藩 → 廃藩置県へ

≪終　焉≫

戊辰戦争では、織田藩主が官軍により奥羽鎮撫先導役を命ぜられ、家老　吉田大八が名代としてこの役を担った。

そこから天童織田藩の悲劇がはじまる。奥羽列藩同盟と対峙することになった天童織田藩は、庄内藩の攻撃を受け、戦火に巻き込まれる。その戦争に敗れた天童藩は、奥羽越列藩同盟に加盟。すべての責任をとって、吉田大八は観月庵で切腹。その後明治を迎え廃藩置県となり、藩は終焉した。

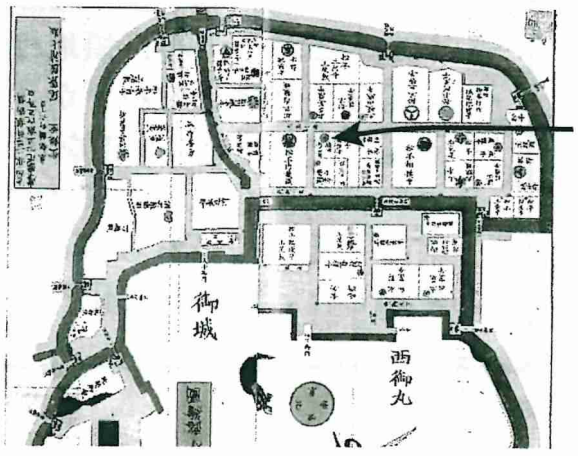
藩校　養正館の学訓

一日の計は鶏鳴にあり、
鶏鳴に起きざれば、一日空し。
一年の計は陽春にあり、
陽春に耕さざれば、秋実らず。
一期の計は幼稚にあり、
幼稚に学ばざれば、老いて後悔やむ。

＝ 天童の八重さん ＝

織田領荒谷村の大庄屋、村形家の娘、八重は11代藩主の側室となり、13代藩主となる寿重丸を生んだ。産後は、戦火を逃れて実家に戻り、失意のなか命を落とした。墓は、三宝寺にある。

八重の実家であり、織田家に仕えた荒谷の村形家では、織田家に仕えた先祖を偲んで信長の銅像を建立した。



大名小路、現在の丸ビル近くにあった織田藩の江戸藩邸